

付録 5

標準掘削断面図・標準掘削幅、道路復旧図 及び土留工標準図

[1] 標準掘削断面図・標準掘削幅

[2] 道路復旧図

[3] 土留工標準図

[1] 標準掘削断面図・標準掘削幅

平成28年 4月 1日 改定

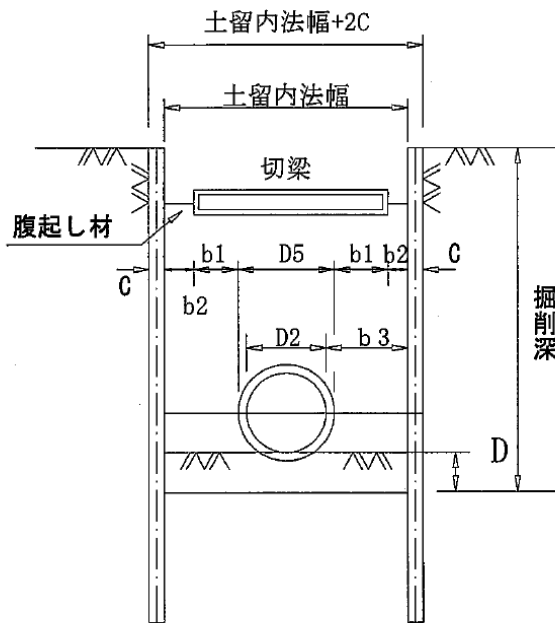
平成28年10月30日 改定

令和3年11月30日 改定

令和4年11月30日 改定

1 掘削幅の算出

- ①掘削幅は、土留内法幅に両側の矢板厚を加算した幅であり、以下の(1)、(2)及び(3)より求めた値を比較して大きい方とする。
- ②掘削幅は、1cm未滿を切り捨てし5cm単位に切り上げ丸め処理する。
- ③掘削内での管接合作業及び埋戻し作業を考慮し、最小掘削幅は60cmに土留加算幅(矢板厚+腹起し材幅)の2倍の値を加えて算出する。(土留めを行わない場合、矢板厚0cm、腹起し材幅0cmで最小掘削幅60cm)



D=会所掘の掘削深度

D2=管外径

D5=受口外径

B=掘削幅

$$= \max(B1, B2)$$

B1=吊込み掘削幅

$$= D5 + 2 \times (b1 + b2 + c)$$

B2=接合掘削幅

$$= D2 + 2 \times (b3 + c)$$

b1=吊込み余裕幅

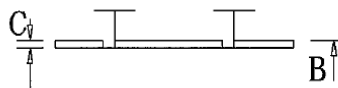
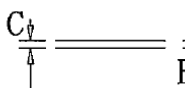
b2=腹起し材幅

b3=接合作業幅

c=矢板厚

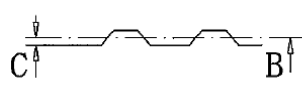
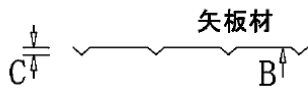
(ア)木矢板土留

(イ)H形鋼横かけ板土留



(ウ)アルミ矢板土留又は軽量鋼矢板土留

(エ)鋼矢板土留



(1) 吊込み時の掘削幅 (計算に用いる各々の項目の標準寸法は別表による)

吊込み掘削幅(B1) = 管最大外径 + 2 × (吊込み余裕幅 + 土留加算幅)

管最大外径 = 受口外径(D5)

吊込み余裕幅 = (b1)

土留加算幅 = 矢板厚(c) + 腹起し材幅(b2)

NS 形吊り込み時掘削幅 (単位 : mm)

採用数値

呼び径	土留なし	土留あり	管最大外径	矢板厚	腹起し材幅
75	261	561	161	40	110
100	290	590	190	40	110
150	342	642	242	40	110
200	394	694	294	40	110
250	446	746	346	40	110
300	508	808	408	40	110
350	565	865	465	40	110
400	621	921	521	40	110
450	672	972	572	40	110
500	800	1100	700	40	110
600	904	1204	804	40	110
700	1030	1330	930	40	110
800	1139	1439	1039	40	110
900	1264	1564	1164	40	110
1000	1373	1673	1273	40	110

※「土留あり」の掘削幅は、土留矢板としてアルミ矢板を使用した場合の数値である。

GX 形吊り込み時掘削幅 (単位 : mm)

採用数値

呼び径	土留なし	土留あり	管最大外径	矢板厚	腹起し材幅
75	259	559	159	40	110
100	290	590	190	40	110
150	342	642	242	40	110
200	394	694	294	40	110
250	446	746	346	40	110
300	508	808	408	40	110
350	565	865	465	40	110
400	621	921	521	40	110

※「土留あり」の掘削幅は、土留矢板としてアルミ矢板を使用した場合の数値である。

(2) 接合時の掘削幅（計算に用いる各々の項目の標準寸法は別表による）

ア ダクタイル鋳鉄管

- a 外面継手（ボルト締付けタイプ A 形、K 形、KF 形、S 形、SⅡ形、GX 形、フランジ形）

$$\text{接合掘削幅 (B2)} = \text{管外径 (D2)} + 2 \times (\text{接合作業幅 (b3)} + \text{矢板厚 (c)})$$

- b 外面継手（プッシュオンタイプ NS 形、GX 形）

$$\text{接合掘削幅 (B2)} = \text{管外径 (D2)} + 2 \times (\text{接合作業幅 (b3)} + \text{矢板厚 (c)})$$

- c 外面継手（プッシュオンタイプ T 形）

$$\text{接合掘削幅 (B2)} = \text{管外径 (D2)} + 2 \times (\text{接合作業幅 (b3)} + \text{矢板厚 (c)})$$

- d 内面継手（U 形）

$$\text{接合掘削幅 (B2)} = \text{管外径 (D2)} + 2 \times (\text{接合作業幅 (b3)} + \text{矢板厚 (c)})$$

- e 内面継手（セットボルト締め付け UF 形、US 形）

$$\text{接合掘削幅 (B2)} = \text{受口外径 (D5)} + 2 \times (\text{接合作業幅 (b3)} + \text{矢板厚 (c)})$$

イ ポリエチレン管及び硬質塩化ビニル管

- a 外面継手（溶着及び接着並びにプッシュオンタイプ）

$$\text{接合掘削幅 (B2)} = \text{管外径 (D2)} + 2 \times (\text{接合作業幅 (b3)} + \text{矢板厚 (c)})$$

ウ 鋼管の現場溶接接合など上記以外については別途考慮するものとする。

NS 形接合時掘削幅 (単位: mm)

 採用数値

呼び径	土留なし	土留あり	管外径	接合作業幅	矢板厚
75	593.0	673.0	93.0	250	40
100	618.0	698.0	118.0	250	40
150	669.0	749.0	169.0	250	40
200	720.0	800.0	220.0	250	40
250	771.6	851.6	271.6	250	40
300	822.8	902.8	322.8	250	40
350	874.0	954.0	374.0	250	40
400	925.6	1005.6	425.6	250	40
450	976.8	1056.8	476.8	250	40
500	1028.0	1108.0	528.0	250	40
600	1130.8	1210.8	630.8	250	40
700	1433.0	1513.0	733.0	350	40
800	1536.0	1616.0	836.0	350	40
900	1839.0	1919.0	939.0	450	40
1000	1941.0	2021.0	1041.0	450	40

※「土留あり」の掘削幅は、土留矢板としてアルミ矢板を使用した場合の数値である。

GX 形接合時掘削幅 (単位: mm)

 採用数値

呼び径	土留なし	土留あり	管外径	接合作業幅	矢板厚
75	443.0	523.0	93.0	175	40
100	468.0	548.0	118.0	175	40
150	519.0	599.0	169.0	175	40
200	570.0	650.0	220.0	175	40
250	621.6	701.6	271.6	175	40
300	672.8	752.8	322.8	175	40
350	874.0	954.0	374.0	250	40
400	925.6	1005.6	425.6	250	40

※「土留あり」の掘削幅は、土留矢板としてアルミ矢板を使用した場合の数値である。

(3) 最小掘削幅（計算に用いる各々の項目の標準寸法は別表による）

$$\text{最小掘削幅} = 60(\text{cm}) + \text{土留加算幅} \times 2$$

$$\text{土留加算幅} = \text{矢板厚}(c) + \text{腹起し材幅}(b_2)$$

NS 形最小掘削幅（単位：mm）

採用数値

呼び径	土留なし	土留あり	所定の掘削幅	矢板厚	腹起し材幅
75	<input checked="" type="checkbox"/> 600	<input checked="" type="checkbox"/> 900	600	40	110
100	600	<input checked="" type="checkbox"/> 900	600	40	110
150	600	<input checked="" type="checkbox"/> 900	600	40	110
200	600	<input checked="" type="checkbox"/> 900	600	40	110
250	600	<input checked="" type="checkbox"/> 900	600	40	110
300	600	900	600	40	110
350	600	900	600	40	110
400	600	900	600	40	110
450	600	900	600	40	110
500	600	900	600	40	110
600	600	900	600	40	110
700	600	900	600	40	110
800	600	900	600	40	110
900	600	900	600	40	110
1000	600	900	600	40	110

※「土留あり」の掘削幅は、土留矢板としてアルミ矢板を使用した場合の数値である。

GX 形最小掘削幅（単位：mm）

採用数値

呼び径	土留なし	土留あり	所定の掘削幅	矢板厚	腹起し材幅
75	<input checked="" type="checkbox"/> 600	<input checked="" type="checkbox"/> 900	600	40	110
100	<input checked="" type="checkbox"/> 600	<input checked="" type="checkbox"/> 900	600	40	110
150	<input checked="" type="checkbox"/> 600	<input checked="" type="checkbox"/> 900	600	40	110
200	<input checked="" type="checkbox"/> 600	<input checked="" type="checkbox"/> 900	600	40	110
250	600	<input checked="" type="checkbox"/> 900	600	40	110
300	600	<input checked="" type="checkbox"/> 900	600	40	110
350	600	900	600	40	110
400	600	900	600	40	110

※「土留あり」の掘削幅は、土留矢板としてアルミ矢板を使用した場合の数値である。

(4) 各項目の余裕幅

b1：吊り込み余裕幅（片側分）（単位：mm）

投入余裕幅	50
-------	----

b2：腹起し材幅（片側分）（単位：mm）

土留矢板種別	普通地盤における標準部材幅（腹起し材幅）		
	木製支保	軽量金属	鋼製
木矢板	150	—	—
軽量鋼矢板	150	110	—
アルミ矢板	—	110	—
鋼矢板及びH鋼横かけ H=3.5m 以下	—	—	200
鋼矢板及びH鋼横かけ H=4.0m 以下	—	—	250
鋼矢板及びH鋼横かけ H=6.0m 以下	—	—	300

b3：接合作業幅（片側分）（単位：mm）

継手種別	摘要			標準接合作業幅	備考
	呼び径	ボルト径	トルク		
外面継手 (T 頭ボルト締め付け)	～75	M16	6	150	レンチ長
	100～250	M20	10	250	
	300～350	M20	10	250	
	400～600	M20	10	250	
	700～800	M24	14	350	
	900～	M30	20	450	
外面継手	プッシュオンタイプ（T 形継手管）			100	余裕幅
外面継手	プッシュオンタイプ（NS 形継手管）			250	レバーホイスト (両側 2 箇所)
外面継手	プッシュオンタイプ（GX 形継手管） 75～300			175	レバーホイスト (アーム長) (上部 1 箇所)
	プッシュオンタイプ（GX 形継手管） 350～450			250	
外面継手(GX 形継手) (T 頭ボルト締め付け)	～75	M16	—	175	ラチェットレンチ長
	100～300	M20	—		
	400	M20	—		
外面継手(S50 形継手) (T 頭ボルト締め付け)	50	M10	—	150	ラチェットレンチ長
内面継手	(U 形継手管)			100	余裕幅
内面継手	700～800	セッポルト締め付け		350	レンチ長
	900～	(UF、US 形継手管)		450	
ポリ管等	ポリエチレン管・硬質塩化ビニル管			100	余裕幅

c : 矢板厚 (片側分) (単位 : mm)

矢板形式	部材厚 (矢板厚)
木矢板 H=1.8m 以下	30
木矢板 H=2.7m 以下	45
軽量鋼矢板 建込み	35
軽量鋼矢板 打込み	35
アルミ矢板	40
鋼矢板 II型	100
鋼矢板 III型	125
H鋼横かけ H=1.5m 以下	30
H鋼横かけ H=4.5m 以下	45
H鋼横かけ H=6.0m 以下	60

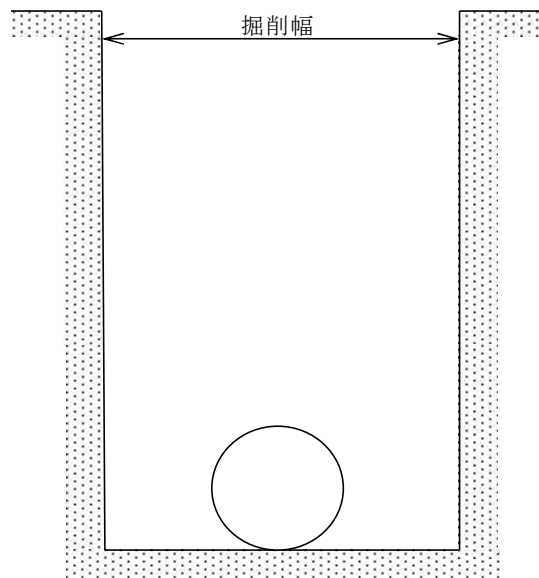
(5) 既設管撤去時の掘削幅

管布設に伴い、同位置にある既設管を撤去する場合の掘削幅については、新設管布設と既設管撤去の掘削幅を考慮し、決定すること。

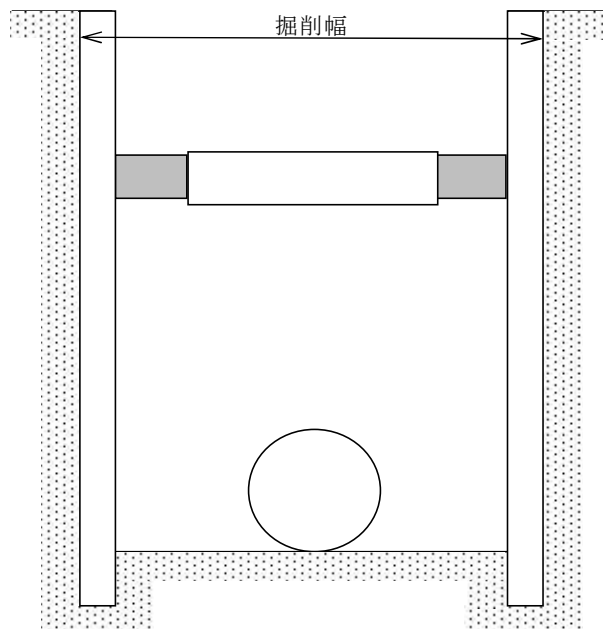
2 標準掘削断面

(1) 標準掘削断面は次のとおりとする。

①土留なしの場合



②土留ありの場合



3 標準掘削幅

(1) NS 形口径別標準掘削幅 (単位 : mm)

呼び径	掘削幅		呼び径	掘削幅	
	土留なし	土留あり		土留なし	土留あり
75	600	900	450	1000	1050
100	650	900	500	1050	1100
150	700	900	600	1150	1250
200	750	900	700	1450	1550
250	800	900	800	1550	1650
300	850	900	900	1850	1950
350	900	950	1000	1950	2050
400	950	1000			

※「土留あり」の掘削幅は、土留矢板としてアルミ矢板を使用した場合の数値である。

(2) GX 形口径別標準掘削幅 (単位 : mm)

呼び径	掘削幅	
	土留なし	土留あり
75	600	900
100	600	900
150	600	900
200	600	900
250	650	900
300	700	900
350	900	950
400	950	1000

※「土留あり」の掘削幅は、土留矢板としてアルミ矢板を使用した場合の数値である。

(3) 撤去管標準掘削幅 (単位 : mm)

撤去管の呼び径	撤去管の掘削幅		備考
	土留なし	土留あり	
75 未満	600	900	撤去管の呼び径 75mm に適用する掘削幅による
75	600	900	GX 形口径別標準掘削幅による
100	600	900	
150	600	900	
200	600	900	
250	650	900	
300	700	900	
350	—	950	
400	—	1000	
450	—	1050	
500	—	1100	NS 形口径別標準掘削幅による
600	—	1250	
700	—	1550	
800	—	1650	
900	—	1950	
1000	—	2050	

※「土留あり」の掘削幅は、土留矢板としてアルミ矢板を使用した場合の数値である。

[2] 道路復旧図

平成29年 1月 1日 改定
令和 4年 4月 1日 改定

1 国土交通省管内道路復旧方法

「占用工事に伴う舗装復旧基準」の試行について

大宮国道事務所管内の占用工事に伴う舗装復旧の基準を次のとおり定める。

平成21年1月23日

大宮国道事務所

(1) 舗装復旧の実施者

次を基本とし、個々の占用許可条件及び特記指示書（以下「特記指示書」という。）において指示のとおり実施する。

- ・原則として占用者が本復旧までを施工する（以下、「占用者本復旧」という。）
- ・占用工事後に修繕工事が予定されている場合等は、占用工事を仮復旧までとする（以下、「道路管理者本復旧」という。）

(2) 舗装復旧の方法

別紙を原則とし、特記指示書に別の定めがある場合は、特記指示書に従い実施する。

(3) 占用工事の工事期間

占用許可書の「工事の期間」は次のとおりとする。

- ・ 占用者本復旧の場合 工事着手から本復旧完了までの期間
- ・ 道路管理者本復旧の場合 工事着手から本復旧完了までの期間

(4) 本試行の施行

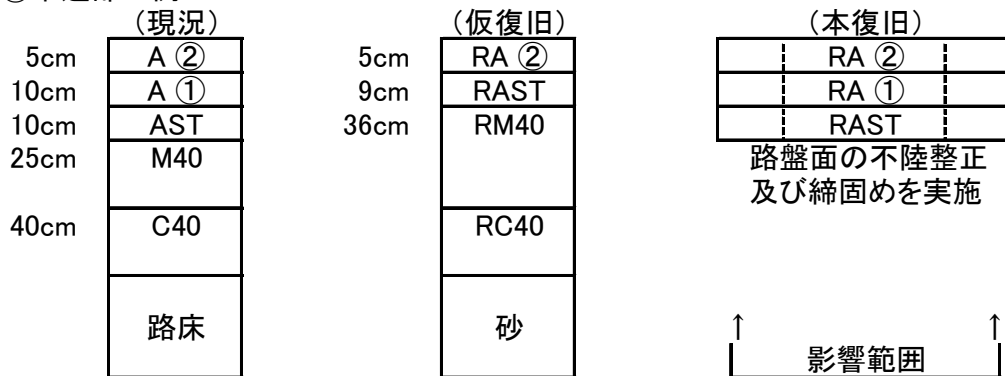
本試行は、平成21年4月1日以降に受理した占用申請にかかる工事から適用する。

(5) その他留意点

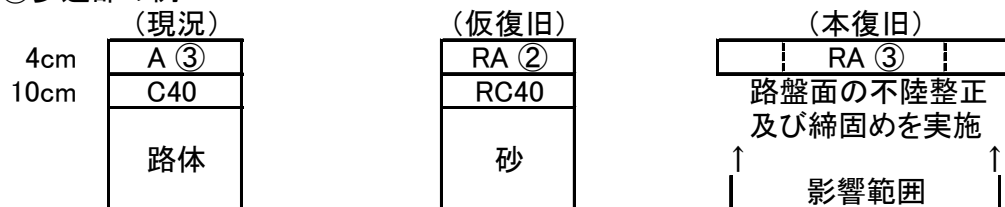
- ・ 現況舗装がコンクリート舗装である区間や、大規模な打換等の修繕工事が予定されている区間の舗装厚決定には、CBR、TAの検討や修繕計画との整合を図る必要がある。
- ・ 本件は占用工事に伴う舗装復旧の標準的な方法を定めたものであり、道路管理者本復旧の場合など仮復旧から本復旧までの期間を考慮して現況舗装と同様の仮復旧、または本試行案による暫定での仮復旧も可能とし、現地の状況等により特記指示書に別の指示をすることがある。
- ・ 今後の実施状況により本試行を随時改訂する。

(新しい舗装復旧の基準)

①車道部の例

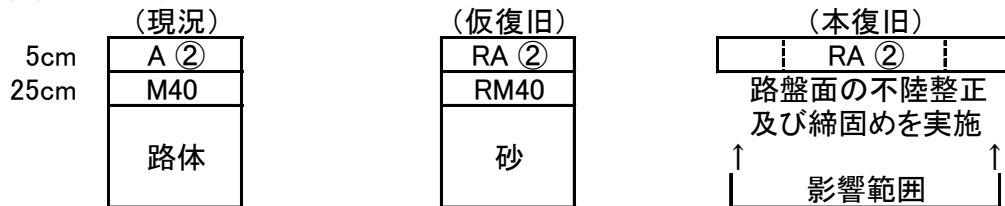


②歩道部の例

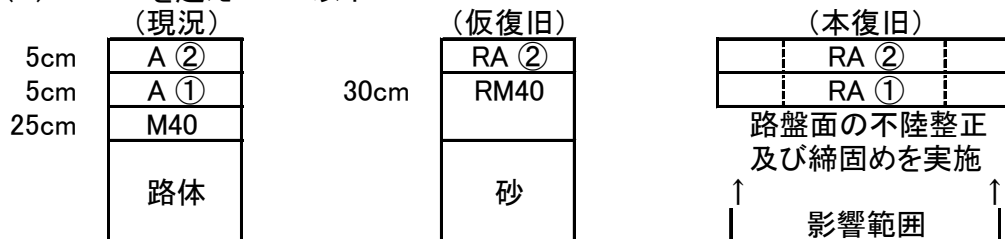


③歩道切り下げ部の例

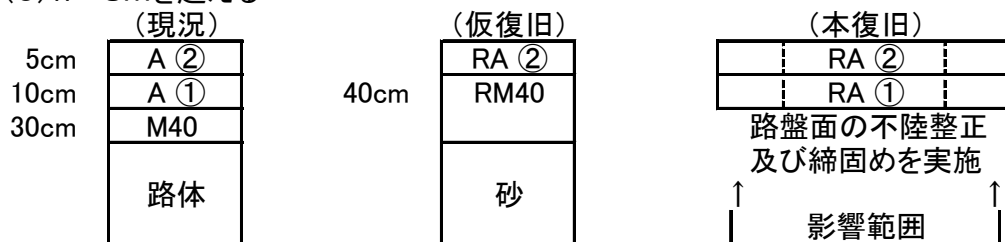
(A) W=4m以下



(B) W=4mを越え～8m以下



(C) W=8mを越える



(注) RA①は再生粗粒As
RA②は再生密粒As
RA③は再生細粒As
砂は再生砂でも可

【参考】

(1) 舗装復旧基準の考え方

①現状の舗装復旧方法 (参考別図)

占用工事の現状は、埋設管等の敷設を日々、掘削後に現況舗装と同様の仮復旧を実施している。その後工期内で可能な期間（自然転圧期間）を確保し、道路管理者との立会による影響範囲確定後、路盤を含めた打換による本復旧を行っている。

②現状の問題点

- ・本復旧の影響範囲内にある、従来から圧密している路盤を掘削し、本復旧している。
- ・仮復旧の舗装厚が現況と同様のため厚く、さらに本復旧も路盤を含めた打換となっていることから、路上規制期間が長期化し、コストも高い。

③新しい舗装復旧の基準（本文別紙の図）

下記の改善を行い、路上規制期間の短縮とコスト縮減を図る。

- ・車道部及び歩道切り下げ部の仮復旧の舗装厚を薄く緩和する。
- ・仮復旧時に本復旧と同様の路盤を施工し、本復旧時は合材部のみ施工する。

(2) 占用工事の工事期間の考え方

①本試行により仮復旧の舗装厚を現況舗装厚よりも薄くしているため、占用者本復旧の占用工事の工事期間は、工事着手から本復旧完了までとして統一する。

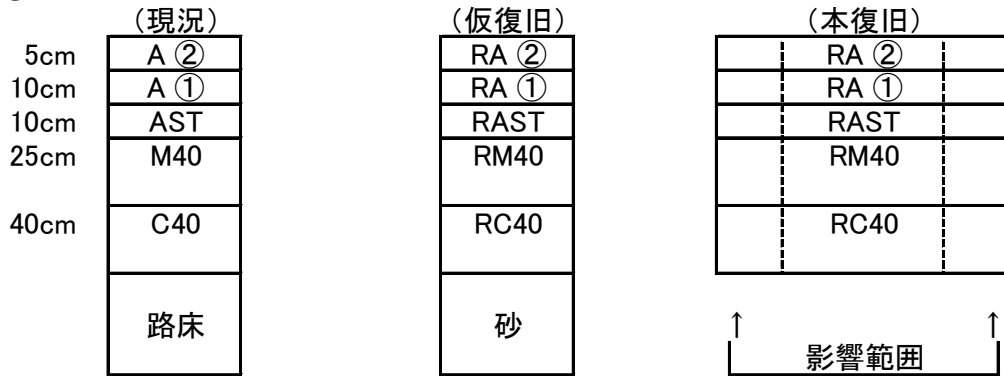
②占用者本復旧とは道路管理者本復旧以外の全ての場合をいい、道路管理者以外の者による一括本復旧も占用者本復旧に含まれる。なお、このようなときは次の具体例のとおり関係する全ての占用許可の工事期間を本復旧完了までの同一期間とする。

(占用者本復旧及び工事の期間の具体例)

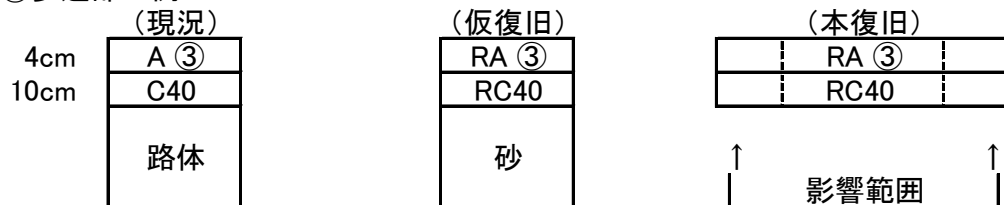
- ・同一箇所における複数の占用工事の後に代表占用者が本復旧する場合
工事の期間：関係占用工事は全て、工事着手から本復旧完了（すなわち代表占用者による本復旧完了）までの期間とする
- ・供給工事に伴う企業間調整の結果、建設業者等が本復旧する場合
工事の期間：関係占用工事は全て、工事着手から本復旧完了（すなわち建設業者等による本復旧完了）までの期間とする

(現状の舗装復旧方法)

①車道部の例

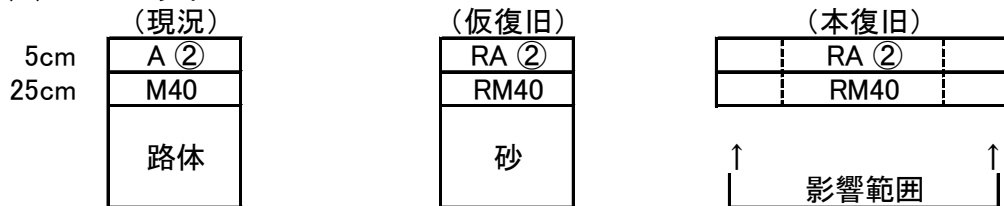


②歩道部の例

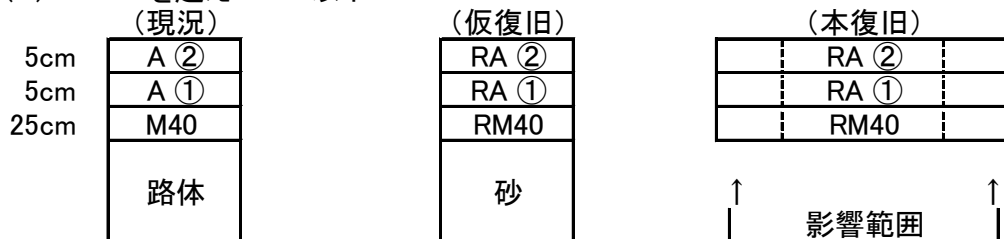


③歩道切り下げ部の例

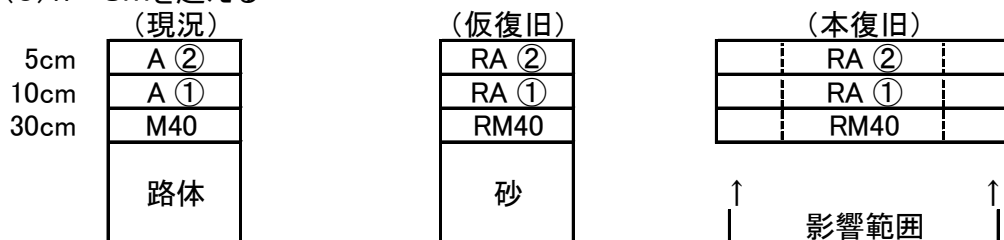
(A) W=4m以下



(B) W=4mを越え～8m以下



(C) W=8mを越える



(注) RA①は再生粗粒As
RA②は再生密粒As
RA③は再生細粒As
砂は再生砂でも可

2 旧建設省管内道路復旧方法

(1) 舗装道路の復旧方法

(イ) 車道部 (アスファルト舗装)

表層	基層	上層	路盤	下層路盤	遮断層	合計厚	摘要
密粒度 アスコン	粗粒度 アスコン	アスファルト安定処理	粒調碎石	切込碎石	砂		
5 cm	10 cm	10 cm	45 cm	50 cm	20 cm	140cm	D 交通
5 cm	10 cm	10 cm	35 cm	40 cm	—	100cm	〃
5 cm	10 cm	10 cm	25 cm	40 cm	—	90 cm	〃
5 cm	10 cm	8 cm	15 cm	15 cm	—	53 cm	〃
5 cm	10 cm	8 cm	—	20 cm	—	43 cm	〃
5 cm	—	—	25 cm	—	20 cm	50 cm	交通量の 少ない支道
5 cm	—	—	25 cm	—	—	30 cm	

(ロ) 歩道切り下げ部

出入口幅	アスファルト舗装			コンクリート舗装	
	表層	基層	路盤	コンクリート版	路盤
	密粒度 アスコン	粗粒度 アスコン	粒調碎石		粒調碎石
4m以下	5 cm	—	25 cm	5 cm	10 cm
4～8m	5 cm	5 cm	25 cm	5 cm	20 cm
8m以下	5 cm	10 cm	30 cm	5 cm	25 cm

(ハ) 歩道部

平板舗装			アスファルト舗装	
平板部カラー舗装	砂	切込碎石	細粒度アスコン	路盤
				切込碎石
6 cm	3 cm	7 cm	4 cm	10 cm

注：建設省管轄の表層の密粒度 As については、溶融スラグは不可。

(国道 16 号、国道 17 号、西大宮バイパス、16 号バイパス、17 号バイパス)

3 さいたま市管内道路復旧方法

(1) さいたま市が管理する道路の舗装復旧は次の通りである。

種 別		名 称		
国 県 道	D	交 通		
	C			
	B			
	A			
	L			
	S 2			
	S 1			
	歩道出入口B	舗 装		
	歩道出入口A			
	歩道一般部（透水性）			
	歩道	コンクリートカラー平板及びインターロッキング		
	歩道出入口	乗 用	アスファルト	
	歩道車両乗り入れ部	小型貨物	コンクリートカラー平板及びインターロッキング	
		普通貨物	アスファルト	
大 型		コンクリートカラー平板及びインターロッキング		
市 道	高級	舗 装		
	中級			
	簡易			
	簡易透水性			
	歩道乗り入れ部			
	歩道一般部（透水性）			
	砂利道			

(2) 舗装道路の道路復旧図

国県道部の道路復旧図 (1)

2017/1/1

舗装構成		仮 復 旧				本 復 旧			
国 県 道	D交通	(転圧) 7cm/層	密粒度As(再生)	70	1100	(転圧) 5cm/層	密粒度As(再生)	50	1100
		10cm/層	再生粒調碎石 (RM-40)	590		7cm/層	粗粒度As(再生)	210	
			再生切込碎石 (RC40-0)	440			+不陸整正	再生粒調碎石 (RM-40)	
		30cm/層	第二種改良土以上			10cm/層	再生切込碎石 (RC40-0)	440	
	C交通	(転圧) 7cm/層	密粒度As(再生)	70	870	(転圧) 5cm/層	密粒度As(再生)	50	870
		10cm/層	再生粒調碎石 (RM-40)	420		7cm/層	粗粒度As(再生)	140	
			再生切込碎石 (RC40-0)	380			+不陸整正	再生粒調碎石 (RM-40)	
		30cm/層	第二種改良土以上			10cm/層	再生切込碎石 (RC40-0)	380	
B交通	(転圧) 5cm/層	密粒度As(再生)	50	690	(転圧) 5cm/層	密粒度As(再生)	50	690	
	10cm/層	再生粒調碎石 (RM-40)	350		7cm/層	粗粒度As(再生)	70		
		再生切込碎石 (RC40-0)	290			+不陸整正	再生粒調碎石 (RM-40)		280
	30cm/層	第二種改良土以上			10cm/層	再生切込碎石 (RC40-0)	290		30cm/層
A交通	(転圧) 5cm/層	密粒度As(再生)	50	590	(転圧) 5cm/層	密粒度As(再生)	50	590	
	10cm/層	再生粒調碎石 (RM-40)	250		7cm/層	粗粒度As(再生)	70		
		再生切込碎石 (RC40-0)	290			+不陸整正	再生粒調碎石 (RM-40)		250
	30cm/層	第二種改良土以上			10cm/層	再生切込碎石 (RC40-0)	290		30cm/層
L交通	(転圧) 5cm/層	密粒度As(再生)	50	450	(転圧) 5cm/層	密粒度As(再生)	50	450	
	10cm/層	再生粒調碎石 (RM-40)	200		7cm/層	粗粒度As(再生)	70		
		再生切込碎石 (RC40-0)	200			+不陸整正	再生粒調碎石 (RM-40)		200
	30cm/層	第二種改良土以上			10cm/層	再生切込碎石 (RC40-0)	200		30cm/層
S2交通	(転圧) 5cm/層	密粒度As(再生)	50	300	(転圧)	※現場状況により密粒度As		300	
	10cm/層	切込碎石 (C30-0)	100		7cm/層	透水性As(樹脂消石灰入)	50		
		再生切込碎石 (RC40-0)	150			+不陸整正	切込碎石 (C30-0)		100
	20cm/層	再生砂			10cm/層	再生切込碎石 (RC40-0)	150		20cm/層
S1交通	(転圧) 5cm/層	密粒度As(再生)	50	200	(転圧)	※現場状況により密粒度As		200	
	10cm/層	切込碎石 (C30-0)	150		7cm/層	透水性As(樹脂消石灰入)	50		
		20cm/層	再生砂				+不陸整正		切込碎石 (C30-0)
						10cm/層			

国県道部の道路復旧図 (2)

舗装構成		仮 復 旧				本 復 旧			
国 歩 道	一般部 (透水性)	(転圧)				(転圧)			
		4cm/層	密粒度As(再生)	40	140	4cm/層	透水性As	40	140
		10cm/層	切込砕石 (C40-0)	100		+不陸整正	切込砕石 (C40-0)	100	
	20cm/層	再生砂		10cm/層		再生砂			
	コンクリートカ ラー平板及びイ ンターロックン グ	(転圧)				(転圧)			
		3cm/層	細粒度As(再生)	30	190		平板・ブロック	60	190
10cm/層		再生切込砕石 (RC40-0)	160	+不陸整正		再生切込砕石 (RC40-0)	100		
20cm/層	第二種改良土以上		10cm/層	第二種改良土以上					
車両乗入(乗 用車、小型貨 物)アスファル ト	(転圧)				(転圧)				
	3cm/層	細粒度As(再生)	30	300	5cm/層	細粒度As(再生)	50	300	
	10cm/層	切込砕石 (C40-0)	270		+不陸整正	切込砕石 (C40-0)	250		
20cm/層	第二種改良土以上		10cm/層		第二種改良土以上				
車両乗入(乗 用車、小型貨 物)コンクリート カラー平板及び インターロックン グ	(転圧)				(転圧)				
	3cm/層	細粒度As(再生)	30	360		平板・ブロック	80	360	
	10cm/層	粒調砕石 (M30-0)	180		+不陸整正	粒調砕石 (M30-0)	100		
		再生切込砕石 (RC40-0)	150		10cm/層	再生切込砕石 (RC40-0)	150		
20cm/層	第二種改良土以上		20cm/層		第二種改良土以上				
車両乗入(普 通・大型貨物) アスファルト	(転圧)				(転圧)				
	3cm/層	細粒度As(再生)	30	450	5cm/層	細粒度As(再生)	50	450	
	10cm/層	再生粒調砕石 (RM-40)	220		+不陸整正	再生粒調砕石 (RM-40)	200		
		再生切込砕石 (RC40-0)	200		10cm/層	再生切込砕石 (RC40-0)	200		
30cm/層	第二種改良土以上		30cm/層		第二種改良土以上				
車両乗入(普 通・大型貨物) コンクリートカ ラー平板及びイ ンターロックン グ	(転圧)				(転圧)				
	3cm/層	細粒度As(再生)	30	710		平板・ブロック	80	710	
	10cm/層	再生粒調砕石 (RM-40)	380		+不陸整正	再生粒調砕石 (RM-40)	300		
		再生切込砕石 (RC40-0)	300		10cm/層	再生切込砕石 (RC40-0)	300		
20cm/層	第二種改良土以上		20cm/層		第二種改良土以上				

市道部の道路復旧図

舗装構成		仮 復 旧				本 復 旧			
市 道	高級	(転圧)				(転圧)			
		5cm/層	密粒度As(再生)	50	730	5cm/層	密粒度As(再生)	50	730
		10cm/層	再生粒調碎石 (RM-40)	390		7cm/層	粗粒度As(再生)	140	
			再生切込碎石 (RC40-0)	290		+不陸整正	再生粒調碎石 (RM-40)	250	
	30cm/層	第二種改良土以上		10cm/層		再生切込碎石 (RC40-0)	290		
	中級	(転圧)				(転圧)			
		5cm/層	密粒度As(再生)	50	590	5cm/層	密粒度As(再生)	50	590
		10cm/層	再生粒調碎石 (RM-40)	300		7cm/層	粗粒度As(再生)	70	
			再生切込碎石 (RC40-0)	240		+不陸整正	再生粒調碎石 (RM-40)	230	
	30cm/層	第二種改良土以上		10cm/層		再生切込碎石 (RC40-0)	240		
	簡易	(転圧)				(転圧)			
		5cm/層	密粒度As(再生)	50	390	5cm/層	密粒度As(再生)	50	390
10cm/層		再生粒調碎石 (RM-40)	150	+不陸整正		再生粒調碎石 (RM-40)	150		
		再生切込碎石 (RC40-0)	190	10cm/層		再生切込碎石 (RC40-0)	190		
30cm/層	第二種改良土以上		30cm/層	第二種改良土以上					
簡易透水	(転圧)				(転圧)				
	5cm/層	密粒度As(再生)	50	370	7cm/層	透水性As(樹脂消石灰入)	70	370	
	10cm/層	切込碎石 (C30-0)	170		+不陸整正	切込碎石 (C30-0)	150		
		再生切込碎石 (RC40-0)	150		10cm/層	再生切込碎石 (RC40-0)	150		
20cm/層	第二種改良土以上		20cm/層		第二種改良土以上				
歩 道	乗入(大型車 乗入ある場合 別途協議)	(転圧)			(転圧)				
		5cm/層	密粒度As(再生)	50	350	5cm/層	密粒度As(再生)	50	350
		10cm/層	再生粒調碎石 (RM-40)	100		+不陸整正	再生粒調碎石 (RM-40)	100	
			再生切込碎石 (RC40-0)	200		10cm/層	再生切込碎石 (RC40-0)	200	
30cm/層	第二種改良土以上		30cm/層	第二種改良土以上					
一般部 (透水性)	(転圧)				(転圧)				
	4cm/層	密粒度As(再生)	40	140	4cm/層	透水性As	40	140	
	10cm/層	切込碎石 (C40-0)	100		+不陸整正	切込碎石 (C40-0)	100		
20cm/層	再生砂		10cm/層		切込碎石 (C40-0)				
砂利道	(転圧)				(転圧)				
	10cm/層	切込碎石 (C40-0)	200	200	10cm/層	切込碎石 (C40-0)	200	200	
	30cm/層	第二種改良土以上			30cm/層	第二種改良土以上			

特 記 事 項

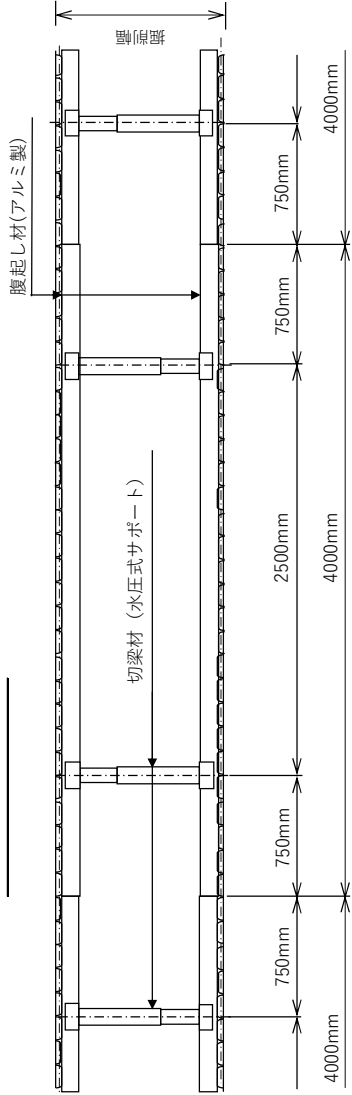
- * 再生切込砕石については下層路盤のみに使用。
- * 管理者の道路復旧方法と異なる場合等は管理者の指示に従うこと。

[3] 土留工標準図

令和	3年	11月	30日	改定
令和	4年	1月	20日	改定
令和	4年	4月	1日	改定

(参考図) 軽量鋼矢板土留工標準図

平面図



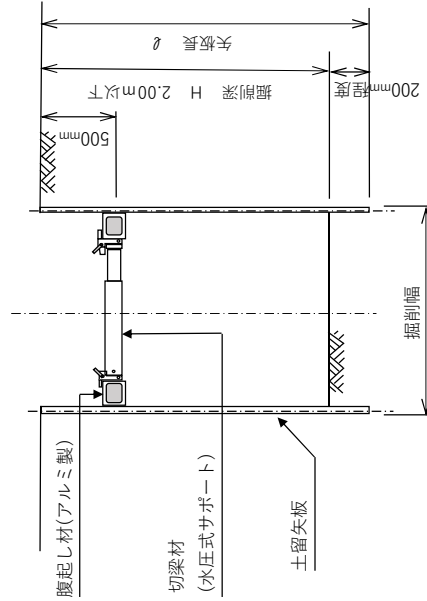
寸法表

掘削深	土留矢板	土留支保工
1.30 < H ≤ 1.80	軽量鋼矢板 φ = 2.00	軽量金属支保工 1段
1.80 < H ≤ 2.30	軽量鋼矢板 φ = 2.50	軽量金属支保工 掘削深2.00m以下 1段 掘削深2.00m超 2段
2.30 < H ≤ 2.80	軽量鋼矢板 φ = 3.00	軽量金属支保工 2段
2.80 < H ≤ 3.30	軽量鋼矢板 φ = 3.50	軽量金属支保工 掘削深3.50m以下 2段 掘削深3.80m以下 3段
3.30 < H ≤ 3.80	軽量鋼矢板 φ = 4.00	

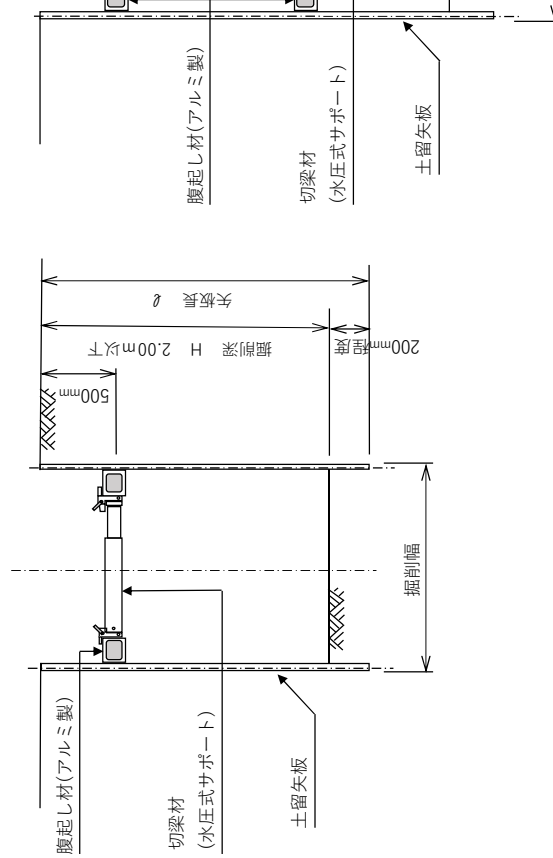
単位 m

断面図

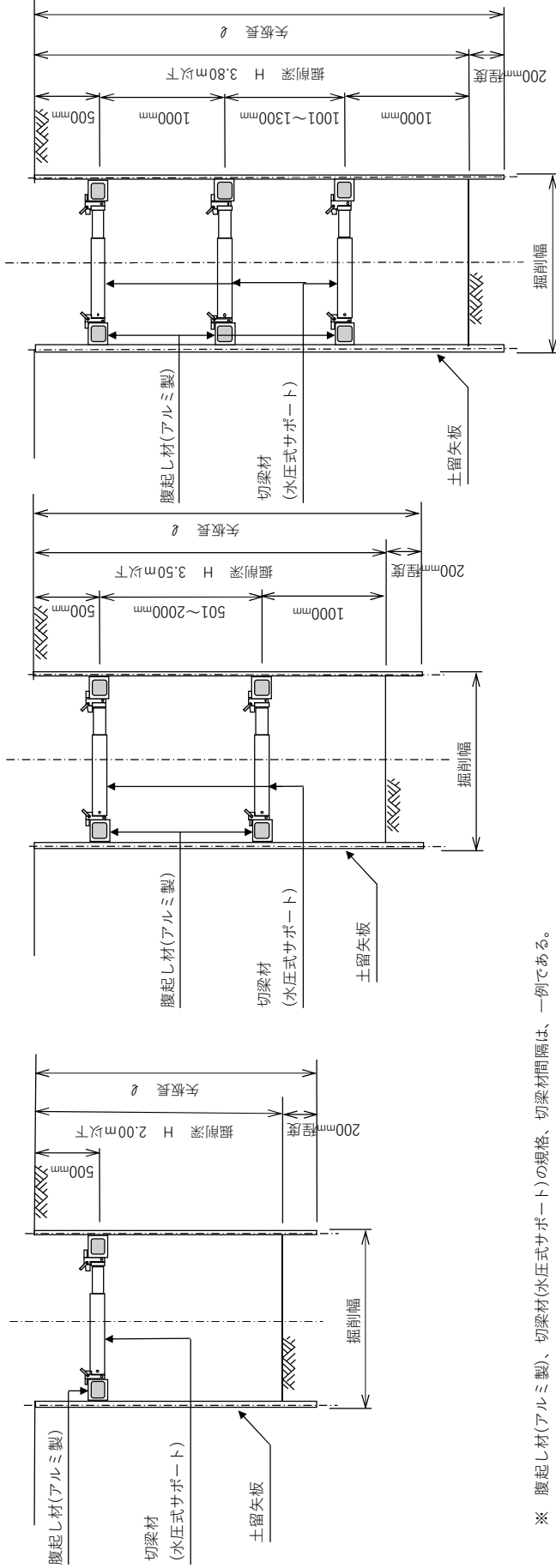
1段支保工



2段支保工



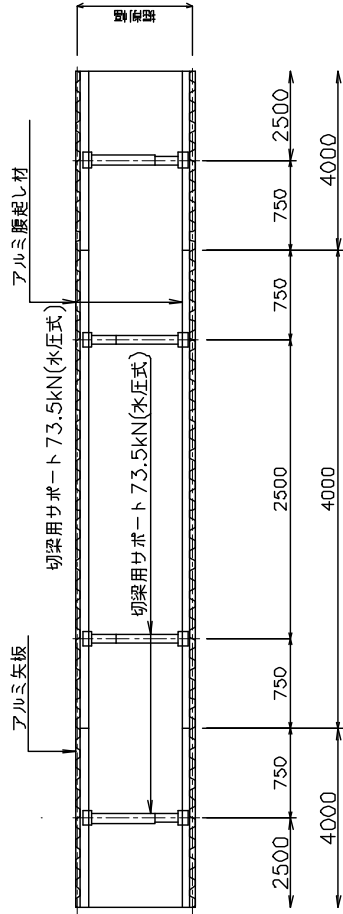
3段支保工



※ 腹起し材(アルミ製)、切梁材(水圧式サポート)の規格、切梁材間隔は、一例である。

(参考図) アルミ矢板土留工標準図

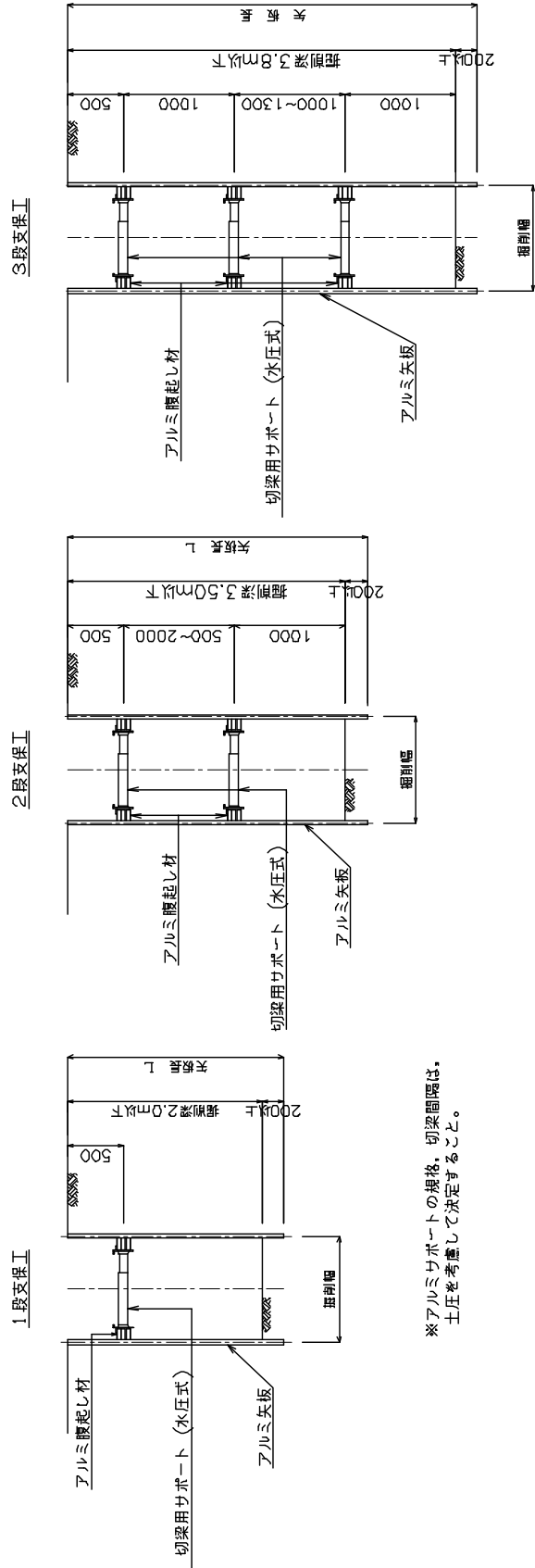
平面図



寸法表

掘削深	土留矢板	土留支保工	単位 m
$H \leq 1.30$	アルミ矢板 $L=1.50$	軽量金属支保工 1段	
$1.30 < H \leq 1.80$	アルミ矢板 $L=2.00$		
$1.80 < H \leq 2.30$	アルミ矢板 $L=2.50$	軽量金属支保工 掘削深2m以下 1段 掘削深2m超 2段	
$2.30 < H \leq 2.80$	アルミ矢板 $L=3.00$		
$2.80 < H \leq 3.30$	アルミ矢板 $L=3.50$	軽量金属支保工 2段	
$3.30 < H \leq 3.80$	アルミ矢板 $L=4.00$		

断面図



※アルミサポートの規格、切梁間隔は、土圧を考慮して決定すること。